

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

1 実践 テーマ	【 V 】
2 実施対 象者	鞍手町立鞍手中学校 2年生126名 1年生109名
3 展開の 形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	日本代表のトップ選手と直にふれあうことを通じて、スポーツに対する興味・関心を向上させ、自分の将来に夢と希望を持たせる。
5 取組 内容	ラグビー日本代表の山田章仁選手を招き、山田選手の先輩でもあるスポーツマネジメント会社経営の中井真一氏をコーディネーターに山田選手がラグビーから学んだことや、目標を高く持つことの大切さを話していただいた後、生徒からの質問に答えてもらう形式でトップ選手との交流活動を行った。 <講演の内容> 中学校の先生から言われて今も覚えている言葉に「50円のお肉を買ってきて100円で売る仕事もあるが、50円のお肉を自分で調理して500円、1000円の価値を生み出して売る。自分で何か価値を生み出す人になってほしい」というのがあります。もちろん何かを仕入れて売ることも素晴らしいことですが、価値を生み出すような人間になりたいと思いました。



また、学生時代から海外に目が向いていて、大学に入って2年の時にオーストラリアにラグビー留学しました。現状で満足せずとにか高い目標を持ち、高いレベルで挑戦することが大切だと思います。

大学卒業と同時にプロ契約でラグビー選手になりました。普通は実業団チームに就職という形で所属するのが当たり前の時代に、人から大丈夫かと心配されました。

「山田選手の給料ってソフトバンクホークスのベンチに座っている人たちとあまり変わらないんですよ。ラグビーでもトップ選手になれば、今ではプロ野球選手と変わらないレベルまで給料がもらえるようになっています。」と中井さんから説明があり、生徒たちは驚いていた。



現在はハワイに自宅を持って日本と行ったり来たりしているが、普通のラグビー選手の常識では考えられないこと。自分の価値観を大切にしている。

<質疑の内容>

Q「一年間に休日は何日くらいありますか」

A 休みはありませんしいりません。毎日トレーニングをしていますし、それが当たり前だと思っていて別に苦痛でもありません。

Q「最近何か失敗したことはありますか」

A うっかりしていて打合せに1時間遅刻してしまいました。

Q「今まで女の子から何人くらい告白されましたか」

A そんなに一杯告白されたことはありません。ただ中学生の時に先輩から告白されたことはよく覚えています。周りの先輩から勧められてOKしたんですけど、何もなくて一週間で終わってしまいました。

Q「好きな芸能人は誰ですか」

A 日本人は特に思い浮かびません。強いて言えばアメリカの映画に出ている女優さんかな。

Q「最初から今のチームに所属していたんですか」

A 最初はホンダに所属していました。2部のチームからスタートしました。

Q「ハカはできますか」

A ハカを知っているんだね。すごいね。残念だけど直接見たことはあるけど自分はできません。

終始和やかな雰囲気では交流会は終わった。

その後、生徒会長が「ぼくは野球部ですが、将来プロ野球選手になり

	<p>たいと思っています。今日のお話を聞いて自分もあきらめずに頑張ろうと思いました。お礼に『花は咲く』を合唱します。」とお礼の言葉を述べ、参加生徒全員で「花は咲く」を合唱した。</p> <p>山田選手も一緒に口ずさみながら拍手の中退場して交流会は終了した。</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の感想から、ラグビーというスポーツそのものに興味・関心が高まった。</li> <li>○ 日本代表のトップ選手と実際に会話をしたり、ふれあったりすることにより、生徒たちは自分もこうなりたいという夢を持つことができた。</li> <li>○ 今年の秋に開催されるラグビーのワールドカップや来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックに対する意識が高まり、ボランティアなどで参加したいという思いをもった生徒がいる。</li> <li>○ プロ野球だけではなく、様々な種目でもトップ選手になれば、経済的にも豊かな生活が送れることを知り、自分の様々な才能を見つめ、伸ばしたいという思いをもつことができた。</li> <li>○ 山田選手が北九州市出身ということを知り、山田選手の活躍を応援したいという思いが育った。</li> <li>○ 中井さんの話でスポーツを支える多くの人たちの存在を知り、様々な角度からスポーツを考えるきっかけになった。</li> <li>○ 夢を持つことや高い目標を持って努力する大切さを知ることができた。</li> </ul>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前に各学級で、山田選手に関する紹介をするなど、生徒が興味や関心を持ちやすいようにした。</li> <li>○ 保健体育の単元がサッカーだったので、授業の中でラグビーがサッカーから誕生したことや、一見激しい格闘技のように見えるラグビーがイギリスでは紳士のスポーツとして青少年の健全育成に大きな役割を果たしてきたことなども事前に説明した。</li> <li>○ 学校公開日として保護者にも広く呼びかけるなどした。</li> <li>○ 学校通信に掲載し、地域住民に配付することにより、地域全体にラグビーのワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックへの機運を盛り上げようとした。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校と連携を図ることによって、更に効果的な取り組みができたのではないか。</li> <li>○ 企画がなかなかまとまらずに実施が三学期にずれ込んでしまい、3年生が入試の関係で参加することができなかった。</li> <li>○ 事業推進委員会を早い段階で立ち上げ、計画を作成して系統立った取組をすることができなかった。</li> <li>○ 他の学校がどのような取組を行っているのかの情報があれば、視察して自校の取組に生かすことができると思う。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<p>平成31年度</p> <p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ラグビーワールドカップに関するボランティアの紹介と募集</li> </ul> <p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ラグビーワールドカップ観戦呼びかけ、学級毎に出場国を割り振り、</li> </ul>

その国について調べ学習をするなどして、実際に応援する。この取組により日本だけではなく、出場国全てに興味・関心が高まるようにする。

平成32年度

1学期

- 東京オリンピック・パラリンピックに関するボランティアの紹介と募集
- 東京オリンピック7人制ラグビーの代表に山田選手が選ばれているかなど、ラグビーワールドカップから東京オリンピックへ盛り上がりを引き継ぐ。